

# 江戸東京の森アーカイブ - お茶の水エッジシティ -



gooマップ参照

1947年（昭和22年） 緑の分布図

戦後間もない御茶ノ水はまだまだ緑が多いのわかる。

街道沿いなどよりも私有地で多くの緑が確保がされているためだと推測することができる。

ニコライ堂に関係している建物周辺には多くの緑が存在していた。

現在では雑居ビルが密集している周辺にもたくさんの緑が存在していた。

神田山

ニコライ堂

戦後

緑

都市化

屋上緑化

減少

再生

昭和22年と比較すると街道沿いなどの緑にはあまり変化が見られないが、私有地の緑が減少している。

高層ビルが立ち並ぶ現代建築の特徴の一つでもある屋上緑化が見受けられる。この周辺では、三井住友海上の緑化が非常に目立つ。

ニコライ堂の緑は昭和22年ほどではないが建物とともに残されている。



Google Earth参照



2008年（平成20年） 緑の分布図



三井住友海上屋上緑化



共同カイトック株式会社グリニッチガーデンの屋上緑化 HP参照

御茶ノ水周辺でもこのような数多くの屋上緑化がされている。しかし、そのほとんどは歩行者の目にとまることはなく、街全体に緑の一体感はない。



聖路加国際病院屋上緑化(中央区)

『江戸の風景』



神田山

坂

『神田山駿河台の再生』

この地は江戸が見渡せる山であった。今でも『坂』という形で名残がある。屋上緑化が浸透しつつある。

江戸時代の景色を現代の街にフィットする形で再現する。

江戸

江戸東京再生